様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ４ 日現在

機関番号：３４５０９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０５３４

研究課題名（和文）バラエティを考慮した使用実態調査に基づく日本語のモダリティ記述発展のための研究

研究課題名（英文）Study for improve of Japanese modality descriptions based on corpus survey considering stylistic differences

研究代表者
野田　春美（NODA, HARUMI）

神戸学院大学・人文学部・教授

研究者番号：６０２３７８４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：『現代日本語文法』の記述のなかで，文体・ジャンルといった観点から見て記述の根拠が不十分だと思われる項目について，書きことばを中心としたコーパス調査を行い，記述の妥当性の検証を試みた。
記述が妥当であることが検証できた項目が多い一方で，記述の不充分さが明らかになった項目もある。母語話者としての内省ではあまり用いられていないと感じられるダリティ形式が，特定のジャンルに集中して出現するケースなどが見られた。文法記述の精度をあげるためには，各形式の，文章のジャンルなどによる用いられかたの違いを観察することが重要であることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：In this study, we sought to elucidate the validity of the Japanese modality descriptions through the corpus survey. We focused on the expressions that have not fully examined from the viewpoint of stylistic genre.
As a result of the corpus survey, we confirmed that most of descriptions are generally valid, whereas several descriptions were found to be insufficient. It is found that some expressions, which native speakers usually feel that they infrequently use, often appear in specific genres. Therefore, in order to improve accuracy of descriptive grammar, it is important to clarify the difference in use of expressions between stylistic genres.

研究分野：日本語学

キーワード：モダリティ　コーパス　ジャンル　記述文法

１．研究開始当初の背景

(1)2010 年，現代日本語の記述文法書である『現代日本語文法』（全７巻）が完結した。包括的な記述文法が出版されたことを一つの節目として，日本語教育などへの実用性が求められる段階となっている。

(2)実用性を高めるためには，使用実態の調査・考察が必要である。日本語の使用実態を調査するにあたっては，話しことばと書きことばの違いや，話し手・書き手の属性（性別・年齢・地域）によるバラエティも考慮する必要がある。

(3)日本語の大規模コーパスが整備されたことによって，さまざまな言語表現の使用実態が調査・研究されつつあるが，日本語教育などに生かすためには基礎的研究が不足している。

２．研究の目的

現代日本語において，話し手の心的態度を担う「モダリティ」（主に文末の助動詞や終助詞によって表される）は文意を決定づける要素であり，コミュニケーション上，きわめて重要である。

そこで，本研究では，申請者らによる記述文法書『現代日本語文法』の記述の実用性を高めるために，モダリティの多様な意味・用法を考慮した使用実態調査を行う。文章の性質による違い，話し手・書き手の属性による違いといったバラエティも考慮した調査・分析に基づいて記述を発展させ，それを非母語話者に対する日本語教育や機械翻訳などに活用できる情報として冊子の形で提示する。

３．研究の方法

(1)『現代日本語文法４　第８部モダリティ』の記述を再検討し，文体・ジャンルといった観点から使用実態が十分明らかにされていない箇所を洗い出し，調査項目を決定した。

(2) BCCWJ（「現代日本語書き言葉均衡コーパス」通常版，国立国語研究所）を中納言（1.1.0 以降）で使用し，項目によっては CSJ（日本語話し言葉コーパス，国立国語研究所・情報通信研究機構・東京工業大学）を使用して調査を行った。

(3)結果について議論を重ね，考察の結果を冊子にまとめた。

４．研究成果

(1)調査項目

『現代日本語文法』第２章「表現類型のモダリティ」関連項目

「です？」,「ないものか」,「だろうか」,「っけ」,「しようっと」,「つもりはない」「つもりではない」「ないつもりだ」,「気だ」,「まい」,「この［名詞］！」,「［名詞］の～さ！」「～こと！」,「なんと／なんて～ことだろう（か）／ことか」（過去形）,「なんと／なんて～ことだろう（か）／ことか」（「は」と「が」）,「～なんて。」

『現代日本語文法』第３章「評価のモダリティ」関連項目

「がいい」,「方がましだ」,「べし」,「てもかまわない」,「てはだめだ」

『現代日本語文法』第４章「認識のモダリティ」関連項目

「かもしれないです」,「かもしれぬ」「かしれない」,「かもわからない」,「ようだ」の「よう。」,「（し）そうではない」,「（する）そうだ」の「そう。」

『現代日本語文法』第５章「説明のモダリティ」関連項目

「ますんです」,「のだった」,「のだから」,「んだと」,「［名詞］の／な／である／というわけだ」,「わけなのだ」,「わけだった」,「わけにはいかない」,「はずがない」「わけがない」,「ものですか」,「たいものだ」,

『現代日本語文法』第６章「伝達のモダリティ」関連項目

「わ」,「かね」,「しような」,「ですな（あ）」「ますな（あ）」,「とも」,「もの」（「もん」）

以上，全項目の調査結果と考察は，研究報告書『日本語のモダリティのコーパス調査報告－『現代日本語文法』の記述の検証－』（2016年3月）として冊子にまとめた。以下，調査結果・考察の一部を示す。〈ジャンル〉とは，BCCWJ のレジスタを基本として微修正を加えたものである。各〈ジャンル〉のデータ量が異なるため，それぞれの〈ジャンルが 100 万語であると仮定した場合の各形式の出現数も算出している。

(2)「表現類型のモダリティ」関連項目「まい」の研究成果の一部

表１　BCCWJ における
「まい」の〈ジャンル〉別の出現状況

〈ジャンル〉	「まい」出現数	「まい」100 万語単位
文学	2545	126.4
文学以外	1452	34.1
雑誌	105	23.6
新聞	17	12.4
白書	3	0.6
広報誌	1	0.3
法律	0	0.0
国会会議録	32	6.3
教科書	16	17.2
韻文	16	71.0
知恵袋	71	6.9
ブログ	139	13.6
計	4397	41.9

・「まい」は，現代の書き言葉においても一定程度用いられている。特に，否定推量の「まい」の出現頻度は，「ないだろう」と比べてもそれほど低くない。「まい」は，単独での使用だけでなく，複合モダリティ形式と結びついた「（の）ではあるまいか」「なければなるまい」などの形でも用いられている。また，「じゃあるまいし」などの定型表現もあり，用いられ方は多様である。
・接続の種類については，Ⅱ型動詞の場合は，非過去形よりも語幹に接続する場合が圧倒的に多い。不規則動詞「する」に接続する場合の形は，「す」「し」「する」の順に多い。

(3)「評価のモダリティ」関連項目「べし」の研究成果の一部

表２　BCCWJ における「べし」「べきだ」の〈ジャンル〉別の出現状況

〈ジャンル〉	「べし」出現数	「べし」100 万語単位
文学	296	14.7
文学以外	801	18.8
雑誌	82	18.4
新聞	6	4.4
白書	8	1.6
広報誌	1	0.3
法律	0	0.0
国会会議録	71	13.9
教科書	6	6.5
韻文	59	261.9
知恵袋	92	9.0
ブログ	187	18.3
計	1609	15.3

・「べし」は，文語ではあるが，『現代日本語文法』の記述とは異なり，現代の書き言葉にも一定程度現れている。古い文献の引用や韻文の中で現れるだけでなく，もともともっている文語的な古めかしさを逆に生かし，文章に変化をつける表現として，雑誌やブログなど軽い文体の文章でも用いられている。

(4)「認識のモダリティ」関連項目「かもわからない」の研究成果の一部
・「かもわからない」は，「かもしれない」に比べて出現はきわめて少ない。
・BCCWJ においては，国会会議録での出現率が特に高い。
・BCCWJ においては 4 割，CSJ においては 7 割が，「が」「けど」が後接する例である。
・BCCWJ の国会会議録や CSJ では，「が」「けど」を伴い，そのあとの発言の前置きとして，用いられる例が多い。
・CSJ では男女ともに幅広い年代で使用は見られたが，45 歳以上での使用が比較的多く，女性より男性のほうが出現率が高かった。
・出生地には特に偏りは見られなかった。

(5)「説明のモダリティ」関連項目「のだった」の研究成果の一部

表３　BCCWJ における物語的過去のノダッタの〈ジャンル〉別の出現状況

〈ジャンル〉	ノダッタ出現数	ノダッタ100 万語単位
文学	4898	243.2
文学以外	4221	99.2
雑誌	253	56.9
新聞	25	18.2
白書	0	0.0
広報誌	4	1.1
法律	0	0.0
国会会議録	1	0.2
教科書	23	24.8
韻文	29	128.7
知恵袋	15	1.5
ブログ	690	67.7
計	10159	96.8

・物語的過去を表すノダッタ（「のだった」「のでした」など）は，文学や韻文に現れるほか，文学以外の書籍やブログにも現れる。
・多くの〈ジャンル〉で普通体の割合が高いが，知恵袋やブログでは丁寧体の割合が高い。
・ブログでは，話のなかで特に重要な出来事を示すほか，話を詠嘆的に締めくくる効果や，余韻を感じさせつつ，文体に変化をつける効果もある。

(6)「伝達のモダリティ」関連項目「かね」の研究成果の一部
表４　BCCWJ における「かね」（普通体接続）の〈ジャンル〉別の出現状況

〈ジャンル〉	「かね」出現数	「かね」100 万語単位
文学	1906	94.6
文学以外	439	10.3
雑誌	54	12.1

新聞	4	2.9
白書	0	0.0
広報誌	0	0.0
法律	0	0.0
国会会議録	9	1.8
教科書	1	1.1
韻文	3	13.3
知恵袋	62	6.0
ブログ	237	23.2
計	2715	25.9

・「かね」は文体によって，出現の多い〈ジャンル〉が異なる。普通体接続は文学での出現率が最も高いが，丁寧体接続は知恵袋での出現率が最も高く，ブログもそれに次いで高い。
・文学での普通体接続の「かね」は，成人男性から目下の相手への質問と思われるものが多い。高圧的に感じられる例や反語的な例もある。「ね」によるやわらかさはあるものの，上の立場から念を押すようなニュアンスが感じられるものが多い。
・ブログでの普通体接続の「かね」は，独話的な使用が多い。「かな」に比べると，年齢が高く経験・知識が豊かな立場から疑念を呈しているように感じられる。
・ブログでの普通体接続の「かね」は，書き手が女性の場合，年齢の高い男性のイメージを利用しながら，自分の評価や感想などを述べているようである。
・CSJ では普通体に接続する「かね」は「なんかね」「～つうかね」などを除くと 3 例しかなかった。いずれも独話的な性質のある箇所であった

(7)全般的に，母語話者としての内省ではあまり用いられていないと感じられるモダリティ形式が，特定の〈ジャンル〉に集中して出現するケースなどが見られた。モダリティ形式に限らず，媒体や文章による出現の違いを観察することの重要性が明らかになった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 3 件）
1.高梨信乃「「つもり（だ）」について―意志表現の指導の観点から―」『神戸大学留学生センター紀要』22，査読無，pp.1-16，2016 年 3 月
2．野田春美「終助詞「もの」の記述と用例のギャップ―コーパス調査に基づいて―」『人文学部紀要』35，査読無，pp.91-102，神戸学院大学人文学部，2015 年 3 月
3．野田春美「「はずがない」と「わけがない」―異なりの小さい類義表現のコーパス調査による分析―」『人文学部紀要』34，査読無，pp.29-41，神戸学院大学人文学部，2014 年 3 月

〔学会発表〕（計 9 件）
1.范一楠・野田春美「書きことばにおける「のだから」の使用実態―コーパス調査に基づいて―」「グローバル化時代に求められる日本語教育・日本学研究」国際シンポジウム，2015 年 12 月 26 日，キナン大学（中国広州）
2.高梨信乃「「しようと思う」と「つもりだ」―書き言葉における使用を中心に―」日本語文法学会第 16 回大会，2015 年 11 月 15 日，学習院女子大学（東京都新宿区）
3.高梨信乃「日本語教育における意志表現の扱いをめぐって」香港中文大学シンポジウム「アジアにおける日本語学と日本語教育のフロンティア」，2015 年 5 月 9 日，香港中文大学（香港新界沙田）
4.高梨信乃「「つもり（だ）」について―意志表現の指導の観点から―」日本女子大学公開シンポジウム，2014 年 12 月 20 日，日本女子大学（東京都文京区）
5.高梨信乃「「つもり（だ）」について―意志表現の指導の観点から―」第 10 回香港国際日本語教育・日本研究シンポジウム，2014 年 11 月 15 日，香港大学（香港薄扶林）
6.野田春美　「書きことばにおける話しことば的表現」日本語学会 2013 年度春季大会シンポジウム「話し言葉と書き言葉の接点」，2013 年 6 月 1 日，大阪大学（大阪府豊中市）

〔図書〕（計 2 件）
1.野田春美「「話しことば的」な文章に見られる話しことばとは異なる表現―BCCWJ におけるブログの特徴―」庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己（編）『日本語研究のフロンティア』，pp.183-204，くろしお出版，2016 年 6 月
2.野田春美「疑似独話と読み手意識」石黒圭・橋本行洋編『話し言葉と書き言葉の接点』，pp.57-74，ひつじ書房，2014 年 9 月

６．研究組織

(1)研究代表者
野田　春美（NODA Harumi）
神戸学院大学・人文学部・教授
研究者番号：６０２３７８４９

(2)研究分担者
高梨　信乃（TAKANASHI Shino）
神戸大学・留学生センター・教授
研究者番号：８０２６３１８５